第６８回青少年読書感想文コンクール
小学校低学年の部　特選
「すうがくでせかいをみるのをよんで」　島本町立第四小１年・石田悠真さん

ぼくは、けいさんがすきです。かぞくのしんちょうやたいじゅうをぜんぶたしたり、じかんをふんやびょうにかえるのがおもしろいです。くにやとどうふけんのじんこうやめんせきをおぼえるのもとくいです。すうじをみているとたのしいです。おかあさんはそんなぼくをみて、このほんをすすめてくれたのでよみました。

このほんはすうがくがすきなこのおはなしです。すうがくがすきなのはこのこだけで、パパはえをかくこと、ママはけんきゅう、おにいちゃんはおんがくがすきです。かぞくみんなそれぞれすきなことはちがうけど、みんなたのしそうです。さいごに、たかっけいやきどうがのっているすうがくノートがあって、とてもおもしろいです。

ぼくは、いつもすきなことをかんがえているのはいいなぁとおもいました。まいにちたのしくすごせるとおもいます。すきなことがほかのひととちがってもいいといってもらえるのもうれしいです。

さいしょにこのほんをよんだとき、フラクタルずけいをさがしてみたいとおもいました。つぎによんだときは、どうしんえんについてしりたいとおもいました。おもしろくて、なんかいもよみました。もっとすうがくについてしりたいとおもって、さんすうのずかんをかりてきてよみました。ひっさんのほうほうが２しゅるいあることをしりました。どんどんあたらしいことをしるのもとてもたのしいです。

ぼくはすうじやけいさんがすきだけど、おともだちにおなじようなこはいません。でも、みんなぼくのことをすごいといってくれて、はずかしいけどうれしいです。おともだちにきかれたときに、じょうずにせつめいできるように、もっともっとしりたいです。それから、ぼくもおともだちのすきなことやとくいなことをみつけて、ほめてあげたり、おしえてもらいたいとおもいます。(「すうがくでせかいをみるの」ミゲル　タンコ　訳・福本友美子／ほるぷ出版)